

🌳🌳🌳 富山県 🌳🌳🌳🌳🌳🌳🌳🌳🌳🌳🌳🌳

中央植物園だより

2002.

7・8・9月号

(通巻24号)



エノテラ・ミズーリエンシス (*Oenothera missouriensis* Sims)

マツヨイグサ属の一種で、花は夕方から開く。草丈のわりに花は大型。北アメリカ原産の植物だが、園内の「新着植物のエリア」にはゲーテ大学植物園（ドイツ）から種子交換で導入したものを展示している。

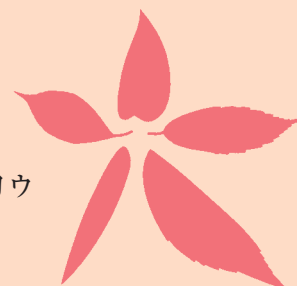
「種子交換」で入手した植物

活動報告……………野生ラン展、植物と野鳥ほか

話題の植物……………メコノプシス・グランディス、スイフヨウ

研究紹介……………チョウジザクラの種内分類

雲南省の植物と文化…その2 雲南省南部



ドリラス

<http://www.bgtym.org>

「種子交換」で入手した植物

植物園での植物収集には、購入、採集、寄贈、交換の4つの方法があります。このうち「交換」には、生きた植物を交換する例もありますが、「種子交換」という古くから植物園相互の活動として定着している方法があります。

種子交換の実際

種子交換をする時には、植物園は交換として発送できる植物の「種子目録」を発行して、相手の植物園に送ります。先方の植物園からも、同様な目録が送られてきます。欲しい植物があればお互いに先方に申し込み、種子が送られてくる仕組みになっています。海外の植物園を相手にすることが多く、外国産の植物の種子を入手するにはたいへん都合の良い方法で、一般の販売ルートには乗りにくいような、入手の難しい植物を導入するにはたいへん便利です。



富山県中央植物園の種子目録。現在、海外を中心に約30ヶ所の植物園と目録を交換している。

注文の多い身近な植物

あくまで交換ですので、こちらの植物園からも種子の提供を行っています。これまでの経験では、海外の植物園からの注文が多いのは、カエデの仲間やアカメガシワなど、ごく普通の植物です。身近な野山にあるありふれた植物は、販売ルートに乗りにくいいため、海外では意外と入手しにくいかもしれません。

遺伝子資源の保全にも貢献

一方で、種子交換は世界の植物園における遺伝子資源の保存の働きにおいても重要な側面を持っています。イギリスのキュー王立植物園では、地球上の種子植物の10%にあたる2万4000種の種子を2010年までに収集し、零下20℃の地下冷蔵庫で保存する計画を進めています。これらの種子は、希望があれば研究機関へは無償で提供されるそうです。

入手した植物の展示

種子交換で入手した植物を中心に展示するコーナーが、園内に整備されています。温室の西側、熱帯果樹室と雲南温室の間に設けられた、「新着植物のエリア」です。これまでに種子交換で導入し、このエリアで展示した植物には、果実の形から「悪魔の爪」と呼ばれるツノゴマや、「アンデスの黄金の果実」と称される南米原産のルロなどがあります。このほか、温室東側の園路沿いや高山植物室にも種子交換で入手した植物が展示されています。



種子交換で入手した植物を中心に展示した「新着植物のエリア」

種子交換で入手した植物のいろいろ



ツノゴマ *Proboscidea louisianica* (Mill.) Thell. Ing. CARLOS ERALIO R. RUIZ (アルゼンチン) より



オニナベナ *Dipsacus fullonum* L. コペンハーゲン大学植物園より



チコリ *Cichorium intybus* L. ハンガリー科学アカデミー生態・植物学研究所植物園より



フウロソウ属の一種 *Geranium macrorrhizum* L. ゲーテ大学植物園より



ゴボウ (野生種) *Arctium lappa* L. ベルリン-フンボルト大学植物園より



ノハラフウロ *Geranium pratense* L. ゲーテ大学植物園より



シュコンレンリソウ *Lathyrus latifolius* L. ベルリン-フンボルト大学植物園より



モウズイカ属の一種 *Verbascum phoeniceum* L. ハンガリー科学アカデミー生態・植物学研究所植物園より

特別展「第23回 野生ラン展」

富山県蘭協会との共催で、5月4日～6日に開催されました。



盛況だった野生ラン展



平田良雄さんによる講演

イワチドリ、エビネ類、セッコクなどの日本の野生ランをはじめ、外国産の野生種を含む約350株のランと、中央植物園が収蔵しているラン

に関する貴重図書が展示されました。また、5月5日には講演会が開かれ、富山県蘭協会の平田良雄副理事長が「北陸でのラン栽培」と題して講演しました。

写真展「植物と野鳥」

愛鳥週間にちなみ、日本野鳥の会富山県支部との共催で5月10日～6月5日に開催されました。花の蜜を吸うメジロ、果実を食べるヒヨドリ、植物の害虫を食べるオオルリ、植物に身を隠すコノハズクなど、植物と鳥の相互依存の関係を示す興味深い写真約70点が展示されました。また、5月12日には植物園友の会の主催で講演会が開かれ、野鳥の会富山県支部の酒井昌則副支部長がビデオ映像を使いながら「富山の野鳥と植物」のテーマで講演しました。



植物と野鳥の関係を示す写真を展示

企画展「植物でつくる紙」

6月7日～19日に開催され、人類の生活に欠かせない「紙」がどのような植物からできているか、また原料植物の違いによってどのような特徴をもった紙ができるかについて紹介しました。古代の紙パピルス、木材パルプから作られる現代の洋紙、非木材紙のケナフ紙やゲットウ紙、サトウキビからつくられるバガス紙、ワタからつくられる水彩画用紙、コウゾやミツマタからつくった和紙などを展示しました。また、6月7日から9日には、平村和紙工芸研究館の協力で「和紙をつくってみよう」が開催され、紙すき体験コーナーを設けました。



人間生活に欠かせない紙が
どのような植物から作られるか紹介

メコノプシス・グランディス *Meconopsis grandis* Prain

「ヒマラヤの青いケシ」の一つメコノプシス・グランディスが開花しました。この株は、昨年度、日本植物園協会の種苗交換で大阪の咲くやこの花館から導入したものです。青い花を咲かせるメコノプシスにはこの他にメコノプシス・ベトニキフォルアやメコノプシス・ホリドゥラなどがありますが、これらは一般には行き難い高山に分布し、高温多湿の日本では栽培が難しいため「幻の植物」といわれていました。日本では平成元年に大阪で開催された花の万博で紹介されて一躍有名になりました。中央植物園では、外国の植物園などから導入した種子からたくさんの苗が育っているので、来年はもっと多くのヒマラヤの青いケシを展示できることと思います。

(主任研究員 神戸敏成)



「ヒマラヤの青いケシ」の一つメコノプシス・グランディス

スイフヨウ *Hibiscus mutabilis* L. f. *versicolor* Makino

石川さゆりの「風の盆恋唄」で「咲いてはかない酔芙蓉・・・」と歌われているスイフヨウは、アオイ科の植物です。フヨウの花が赤の一重咲きであるのに対し、スイフヨウには八重咲きの園芸品種のほか、一重の白花品種があります。「酔芙蓉」という漢字で表されるように、開花直後の白色の花が翌日には徐々に赤味を帯びて、酒に酔った様なのでこの名前がつけられました。開花時期はフヨウが9月上旬から咲き始め、スイフヨウの開花はそれから2週間ほど遅れます。

(主任研究員 山下寿之)



花は開いたときは白色で、しばらく頃には赤味を帯びる

チョウジザクラの種内分類

技師 大原隆明

日本には約10種のサクラが自生していますが、そのうちの一種、本州および九州に分布するチョウジザクラは私が研究対象にしているサクラのひとつです。現在までのところ、チョウジザクラには、次のような3つの変種が知られています。

1. チョウジザクラ（狭義）

宮城県から長野県に至る太平洋側の地域および中国地方の一部、九州中部の山地の溪谷沿いに分布します。花卉が小型であるために地味な印象を受けますが、萼筒（がくとう）は大きく膨らんでいるため目立ちます（図1）。

2. オクチョウジザクラ

富山県東部から秋田県に至る日本海側に分布し、雑木林内に多く生育します。チョウジザクラに比して花卉が大きく、萼筒の膨らみはやや少ない特徴があります（図2）。

3. ミヤマチョウジザクラ

岐阜県飛騨地方を中心とした本州中部に分布し、山地の溪谷沿いに生育します。花はチョウジザクラ（狭義）と同様小型で、萼筒の膨らみはオクチョウジザクラと同じように少ないのが特徴です。葉の縁の欠刻状の鋸歯（きょし）が著しく深いのも特徴的です。

私は、上述のような種内の分類体系が妥当であるかを検討するために、それぞれの分布地域内のあちこちで集団サンプリングを行

い、その形態の計測調査を行うとともに、愛知教育大学の生物学教室と共同でアロザイム分析を行っています。

その結果、これまでに狭義のチョウジザクラとしてまとめられていたもののうち、中国地方に産するものは、萼筒の形や葉縁の鋸歯の性質などで長野県以東の集団のものとは明らかに異なり、遺伝的にも分化していることが判ってきました。この結果は近日中に論文として報告し、中国地方のチョウジザクラを新分類群として記載する予定です。



図1 長野県産のチョウジザクラ（狭義）の花



図2 富山県産のオクチョウジザクラの花

その2 雲南省南部

主任研究員 神戸敏成

第2回目は6月中下旬に野外調査に出かけた雲南省南部の報告です。雲南省最南部の州、西双版纳（シーサンバンナー）までは昆明から片道800kmを超える長い道のりです。途中、普洱茶（プーアールチャ）で有名な普洱という街を通り、最初の目的地である西双版纳熱帯植物園へ到着したのは翌日の夕方でした。



写真1 西双版纳熱帯植物園

西双版纳熱帯植物園はメコン川に囲まれた約900ha（富山県中央植物園の約37倍）の広大な敷地を持ち、園内には多数の熱帯植物が植えられています（写真1）。大変充実しているヤシのコレクションや、踊る植物として日本でも話題になったマイハギ、高級香水の材料として有名なイランイランの大木を見ることができます。園内にある自然林の中では熱帯雨林植物の特徴である発達した板根（写真2）や絞め殺し植物（写真3）を見ることができました。

次に訪れた勐腊（モンラー）では望天樹という高木の高さ30m位の位置に設置された樹上走廊にのぼり（写真4）、熱帯雨林を上から観察しました。太陽の光を十分に受けられるように放射状に枝を伸ばしている様子がよくわかりました（写真5）。



写真2 巨大な板根



写真3 絞め殺し植物



写真4 樹上走廊



写真5 樹上走廊から見た熱帯林

西双版纳州は正式には西双版纳傣（タイ）族自治州といい、少数民族の傣族の人たちが生活しています。傣族の家は高床式の大きな家で五箇山の合掌集落を連想させます（写真6）。また、雲南省には200～300頭の野生象が生息していて、野象谷自然公園では運が良ければ野生の象を観察することができます。私たちが訪れた前日には20頭ほどの象が現れたそうですが、残念ながら私たちが見ることができたのは足跡と糞だけでした（写真7）。



写真6 傣族の村



写真7 野生象の足跡

この調査の帰路、昆明植物園で初めて見たときから気になっていた海菜花という水生植物の調査を行なうために石屏異龍湖に寄りました。海菜花は日本にも分布するミズオオバコの仲間です。漁師の船に乗せてもらい調査しましたが、残念ながら発見することができませんでした（写真8）。地元の人の話ではかつては湖一面にあったが、最近ではまったく見ることはできなくなってしまうということでした。今では海菜花は中国の絶滅危惧植物になっています。



写真8 石屏異龍湖での調査

これからが 見ごろの植物

- 1: オオボウシバナ
8月 染めの植物
- 2: ナツズイセン
8月 球根植物
- 3: オミナエシ
8~9月 低地草原



お知らせ

イベント案内

■サンライトホール展示

特別展 食虫植物展 7月19日(金)~7月31日(水)
写真展 夏の夜に咲く花 8月2日(金)~8月21日(水)
友の会植物画部会 作品展 8月26日(月)~9月18日(水)
企画展 カボチャとヒョウタン 9月20日(金)~10月23日(水)

■観察会・講座・講習会

親子植物観察記録会 デジカメで花を撮ろう
日 時: 7月21日(日) 10:00~15:30
場 所: 研修室、園内ほか
共 催: 富山県情報工房
定 員: 親子16組 ◆要申込→この行事の申込は
富山県情報工房 〒930-0866 富山市
高田527 Tel. 076-444-7887 まで

講演会 変わり咲きアサガオ★

日 時: 7月28日(日) 13:00~16:00
場 所: 研修室
講 師: 仁田坂英二 (九州大学)

小学生植物ふしぎ教室

日 時: 7月29日(月)~31日(水) 10:00~16:00
場 所: 実習室、園内、県民公園頼成の森
対 象: 小学校4~6年生
定 員: 24名 ◆要申込

植物染め講習会 アイで染める

(県民カレッジ連携講座)
日 時: 8月3日(土) 10:00~16:00
場 所: 実習室
講 師: 足立紀美子 (女子美術大学)
材料費: 1,000円
定 員: 24名 ◆要申込

夜間開園 夜の温室植物

日 時: 8月14日(水)・15日(木) 19:00~21:30
場 所: 展示温室

植物学講座 粘菌の観察★

日 時: 8月25日(日) 10:00~16:00
場 所: 実習室
講 師: 松本 淳 (慶応義塾大学)
定 員: 24名 ◆要申込

トロピカルフルーツを楽しむ集い

日 時: 9月22日(日) 13:00~16:00
場 所: 研修室
参加費: 2,000円
定 員: 50名 ◆要申込

どんぐりで遊ぼう★

日 時: 10月20日(日) 13:00~16:00

場 所: 研修室

定 員: 40名 ◆要申込

■月例行事

日曜植物案内

開催日: 8月4日(日)、9月1日(日)、10月6日(日)
時 間: 11:00~12:00

植物園オリエンテーリング

開催日: 8月18日(日)、9月15日(日)、10月20日(日)
時 間: 10:30~12:30

◆要申込 このマークの講座・講習会は事前の申込が必要です。申込は開催の1ヶ月前から往復はがきで受け付けています。

★ このマークの講座・講習会は中央植物園ボランティア養成講座です。

●富山県植物公園ネットワーク

スタンプラリー2002 に参加してみませんか?

「富山県植物公園ネットワーク」を形成する、富山県中央植物園と6つの専門植物園: 氷見市海浜植物園・福野町園芸植物園・花総合センター・県民公園頼成の森水生植物園・林業試験場樹木園・立山グリーンパーク吉峰山野草園では、スタンプラリーを開催しています。

開催期間: 平成14年6月1日~12月27日

応募方法

①スタンプラリーのパンフレットをご用意下さい。
(パンフレットは中央植物園と各専門植物園で配布しています)

②4つ以上の植物園を利用して、スタンプを押してください。

③富山県中央植物園にご持参下さい。

→参加者全員に素敵な記念品を差し上げます。

友の会会員募集中!

富山県中央植物園友の会は、富山県中央植物園を中心に植物の観察・学習などを行い、植物についての知識を深めるとともに、富山県中央植物園の諸活動に協力することを目的とした会です。

友の会に入会されますと、会員証を示しサインするだけで中央植物園に入園できます。また、会報や植物園だよりが送られてきたり、多彩な友の会の行事にご参加いただけます。会費は年額3,000円です(新規の方は加入月によりその年度の会費の割引が受けられます)。入園窓口で随時入会を受け付けています。

富山県中央植物園だより 2002. 7・8・9月号 平成14年7月15日発行 (年4回発行)

編集・発行 富山県中央植物園 〒939-2713 富山県婦負郡婦中町上轡田42 Tel. 076-466-4187

印刷 北日本印刷株式会社